



5月2日、4月に市役所内に移転した市青少年育成センターに施設看板を贈呈いたしました。(看板は粟市長が揮毫したものです。左は山本所長)

ごあいさつ

令和5年5月10日

5月5日、午後2時42分ごろ、能登地方を震源とするマグニチュード6.5の地震が発生しました。珠洲市では、震度6強の揺れを観測し、住宅の倒壊や斜面の崩落など大きな被害に見舞われています。1名の方がお亡くなりになり、負傷された方も多くいらっしゃいます。心からご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

幸いにして、本市においての被害は確認されておりませんが、被災地では、依然として余震が続き、今も予断を許さない状況にあります。本市からは、まずは給水車の派遣や、被災建物の応急危険度判定業務にあたる職員を派遣しておりますが、一刻も早い復旧、復興を祈るばかりです。

「災害はいつ起こるか分からない」、連休のさなかに突然起こった天災は、あらためてそのことを私たちに気づかせてくれました。日ごろからの備えを今一度点検する機会を与えられ、緊張感を持って、危機管理に取り組んでまいります。

私事ではございますが、4月16日告示の野々市市長選挙において、無投票当選を果たすことができました。無投票であったということについては、これまでの市政運営に一定のご理解と評価をいただいたものと受け止めておりますが、選挙戦があつての当選よりも「得票」が見えないことで、責任の重さを強く感じております。

私が県議会議員のころや野々市町長に就任した当時、町民の皆さんから、まちづくりに対するさまざまな思いをお聞きしました。図書館や墓地、サッカー場の整備など、これまで野々市にはない施設の要望や、野々市らしいお土産や特産品の開発、誇りや愛着を持てるまちづくりなど、野々市を愛し、これからも野々市に住み続けたいと思ったださる皆さんから、多くの提案とエネルギーをいただきました。

それらを実現するための政策を進める中で、まちづくりの主役は市民であること、そして、市民の皆さんが活躍する舞台づくりこそが行政の役割であること、その思いから一貫して「市民協働のまちづくり」に取り組んでまいりました。これまでの4期16年間で、図書館や墓地の整備を実現することができましたが、やり残したことや、次代へとつなぐ課題もあります。

次期4年間も、野々市市の更なる発展と、市民の皆様の幸せのために、邁進してまいりますので、よろしく願いいたします。